

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次

Pages

➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	7
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	11

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及プロジェクト—小さな自然再生が中小河川を救う！VI リターンズ 開催案内

JRRN では、多様な主体が協働し日曜大工的に自然環境の保全・再生に取り組む「小さな自然再生」の技術と英知を高め、当分野に取り組む人材の育成を図ること、各地域に相応しい新たな取組を活性化させることを目的とした普及促進活動を継続的に実施しています。

今年で 6 回目となる以下の行事が、応用生態工学会 第 22 回全国大会(東京大会@東京工業大学大 岡山キャンパス)で開催されますので、皆様にご案内させていただきます。

自由集会

「小さな自然再生が中小河川を救う！VI リターンズ」

【日時】平成 30 年 9 月 22 日(土) 15:30~17:30

【場所】東京工業大学 大岡山キャンパス

西 9 号館 3 F W933 講義室

【企画】原田守啓(岐阜大)、三橋弘宗(兵庫県立大) 林博徳(九州大)

【プログラム】調整中(下記趣旨を踏まえ、
「小さな自然再生」の取組レビュー、
効果の検証がなされている事例の話題提供、
今後の展開に向けた討論等 を予定)

【開催趣旨】

2012 年に第 1 回の自由集会を開催したことを機に、小さな自然再生に取り組む仲間のネットワークが形成され、JRRN の支援を得ながら事例集の出版、ウェブサイトを通じた情報発信、講習会の開催などを行ってきました。また、新たに取り組みを始める地域や主体も全国的に増えてきました。中小河川における多自然川づくりの補完としての役割や、地域コミュニティの再生という効用にも期待が高まっています。

しかしその一方で、「水辺の小さな自然再生は生態系保全にどれほど効果があるのか?」、「検証はきちんとされているの

か?」、「どれくらいやったら、効果があったといえるのか?」、といった疑問の声も良く聞かれます。第 6 回となる今回は、過去の国内外での事例をレビューしながら、そんな疑問の答えを探っていきたいと思います。

本自由集会は、「小さな自然再生」研究会メンバーによる発起のもと、JRRN としても第 3 回自由集会から開催のサポートをさせていただいています。

- 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！IV」講演録
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/129>
- 自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！V」講演録
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/187>

本自由集会は、来年 1 月開催の「小さな自然再生」交流会(仮称)に向けた連続行事として、「小さな自然再生」に関する希望や疑問、意見の聴取、新たな取組に関する情報の発掘の場にしたいと考えておりますので、より多くの方々のご出席をお待ちしております。

「小さな自然再生」交流会(仮称)

【日時】平成 31 年 1 月 26 日(土) 13:00~18:00(交流会)

1 月 27 日(日)9:00~11:00(現地視察)

【場所】神戸デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)

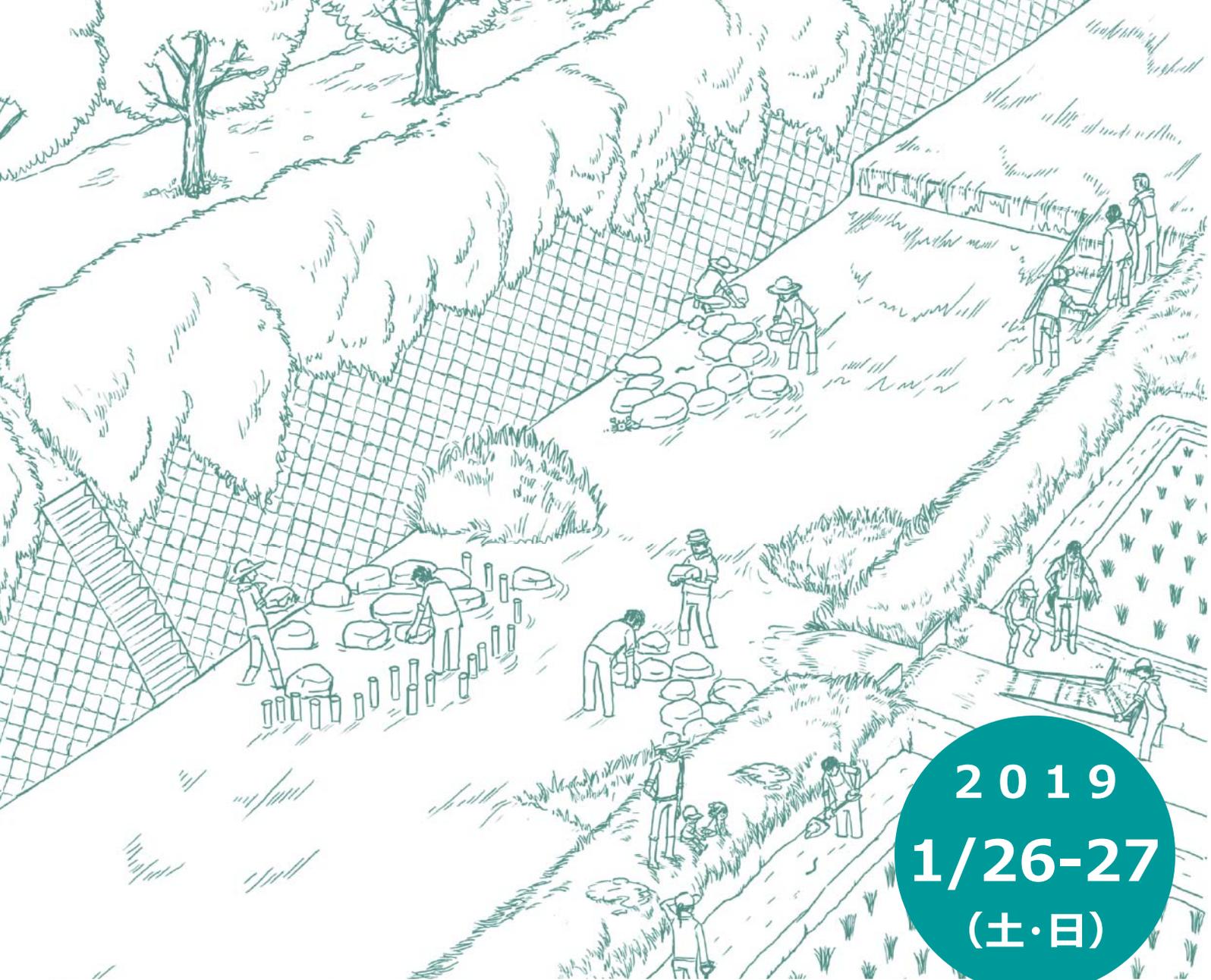
1F ギャラリーA (交流会)

※次頁ちらし参照

応用生態工学会 第 22 回全国大会 (9/20~9/23) については、以下 URL より参照してください。

https://www.ecesj.com/contents/event/conference/22th/22th_meet.html

なお、本活動は(公財)河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。(JRRN 事務局・後藤勝洋)



2019
1/26-27
(土・日)

小さな自然再生 交流会 (仮称) を開催します!

© Itsuha Izawa

【日時】2019年1月26日(土) 13時~18時(交流会)、18時30分~(懇親会)
27日(日) 9時00分~11時00分(現地視察@住吉川)

【場所】神戸デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) 1F ギャラリーA (交流会&懇親会)

【参加費】無料 (懇親会費は別)

※プログラム詳細や事例発表&参加申込方法は、2018年10月頃に改めてご案内します。

【プログラム】 ※予定

10時 開場 (展示等の準備、参加者交流 ※自由来場)
13時 交流会 開会
小さな自然再生の取組レビュー、全国事例発表、意見交換
18時 交流会 閉会
18時30分 懇親会 開会 (~20時@同会場)

【サイドイベント】 ※予定

“iRICで学ぶ小さな自然再生”
日時: 1/27(日) 13時~15時
場所: KIITO 301 会議室
講師: 久加朋子 (北海道大学)
※受講者はノートPC 要持参

主催: 「小さな自然再生」研究会 共催: 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)



河川
基金

公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています。



JRRN
Japan River Restoration Network

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

アジア河川・流域再生ネットワーク「第15回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」開催報告

1. はじめに

2018年8月21日(火)、アジア河川・流域再生ネットワーク(以下、ARRN)の「第15回 ARRN 水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」(以下、第15回 ARRN 国際フォーラム)が、第12回国際水理環境学会国際会議(12th ISE International Symposium on Ecohydraulics)のスペシャルセッションとして日本・東京にて開催されました。

表 開催概要

第15回 ARRN 国際フォーラム (14:00 - 17:45)

開催日: 2018年8月21日(火)
 開催場所: 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館
 5階151教室
 主催: 応用生態工学会
 アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)

テ - マ : River Restoration Methodology
 contributing to the Formation of
 Ecological Network

<コーディネーター>

根岸 淳二郎(応用生態工学会/北海道大学, 日本)
 Suk Hwan Jang (KRRN/Daejin University, Korea)

プログラム:

- 開会挨拶・来賓挨拶 14:00-14:10
- 研究発表(1) 6発表 14:10-15:40
- 休憩 15:40-16:00
- 研究発表(2) 7発表 16:00-17:45
- 閉会挨拶 17:45



光成 政和 河川環境課長による来賓挨拶

2. 第15回 ARRN 国際フォーラム

今回のフォーラムでは「生態系ネットワークの形成に寄与する水辺・流域再生」をテーマに、中国、韓国、台湾、日本の各国から計13本の研究発表がありました。

研究発表の内容は、魚類の個体群構造やその動態、河川流域再生の技術や実践、設計過程における NGO や地域住民との協働、統合的水資源管理におけるビジョンと戦略に関する報告など多岐に渡りました。各発表後にはフロアから多くの質問が寄せられ、研究手法や条件、研究成果の活用や取り組みの進め方などについてそれぞれコメントがありました。



質疑応答時の様子



金尾健司 ARRN 会長による開会挨拶

3. おわりに

今回のフォーラムでは、各国の最新の政策や取組み、日本が培った経験などに関する情報共有を通じて、アジア諸国を核としながら各地域との技術交流や友好関係の構築を進めることができました。これもひとえに、発表者の皆様や今回の開催にご尽力くださったすべての皆様のお力添えのおかげです。末筆ながら御礼申し上げます。ありがとうございました。

(JRRN 事務局・佐治史)

JRRN 事務局からのお知らせ (3) JRRN Activity Report

アジア河川・流域再生ネットワーク「第13回 ARRN 運営会議」開催報告

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の理事会に当たる「第13回 ARRN 運営会議」が、2018年8月21日(火)、東京のリバーフロント研究所内の会議室にて開催されました。

本会議には、日本・中国・韓国の各 RRRN メンバー、金尾 ARRN 会長、台湾が参加し、過去1年間の各国ネットワークの活動内容報告を行うとともに、ARRN の規約に基づいた審議を実施しました。

審議の内容としては、昨年に引き続き、ネットワークの拡大に関する議論を行い、ARRN の組織体系のあり方など、今後の安定的な組織運営に向け、各国 RRRN による積極的な意見交換が行われました。その他、今後1年間の活動として、関係国に対して勧誘の働きかけを行っていくことなどが確認されました。

なお、今回の会議で、次期 ARRN の事務局を中国・CRRN が担うことが決定し、これにより、JRRN の事務局任期も残り1年となりました。今後、限られた期間ではありますが、残る任期を通して、河川再生の分野で各国ネットワークの架け橋としての責務を全うしていきたいと思っております。

第13回 ARRN 運営会議 次第

＜報告事項＞

- ・ JRRN (日本) ,CRRN (中国) ,KRRN (韓国) の過去1年間の活動概要報告

＜審議事項＞

- ・ ARRN の更なるネットワーク拡大について（組織体制と会員制度）
- ・ 2018年～2019年のARRN 活動計画について
- ・ 2019年以降のARRN 事務局移管について

→第13回運営会議の「議事次第」「参加者名簿」(英語版: PDF 80KB) や過去開催記録はこちらから:

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/926.html>

(JRRN 事務局・阿部充)



ARRN 運営会議後の記念撮影

JRRN 事務局からのお知らせ (4) JRRN Activity Report

JRRN 国際交流活動 – 台湾・台中市水利局視察団の都市河川再生に関わる技術交流報告

台湾・台中市政府水利局の視察団が来日し、2018年8月23日(木)に都市河川再生に関わる技術交流を行いました。概要をご報告させていただきます。

【1】視察団の構成と目的及び視察の背景

本視察団は、台中市政府水利局の職員4名、台湾逢甲大学の教授1名、及び民間コンサルタント2名の計7名で構成され、台中市で現在進められている都市河川再生プロジェクトに関わる日本の知見を視察することを目的に来日しました。

■ 台中市政府水利局のホームページ：

<https://www.wrs.taichung.gov.tw/>

台中市では、市内中心部を流れる Liuchuan 川や郊外を流れる Shishuikue 川において、これまでコンクリート三面張りだった河道を、洪水防御を目的とした河川整備に合わせて親水性を高め、かつ自然豊かな川を目指した河川再生事業が実施されています。更にこの2河川の事業を契機に、市内を流れる他の都市河川においても治水と環境の両立を目指した川づくりを進めるための準備を進めています。今回の来日視察では、視察希望先とともに、以下の様なテーマについて日本の事例を学びたいとの要望を台中市より頂き、視察先の河川管理者のご協力を頂き技術交流を行いました。

＜台中市より要望のあった技術交流テーマ＞

- 治水と環境を両立させた川づくりの考え方や技術
- 水質改善に向けた河川内での浄化施設（礫間浄化等）の運用や維持管理
- 市民やN G O団体との協働や合意形成の手法



野川合流点の多摩川にて

【2】技術交流の概要報告

(1) 野川における技術交流（午前）

午前中は、東京都世田谷区を流れる野川を訪問し、河川を管理する東京都第二建設事務所の担当者の方々と技術交流を行いました。

はじめに、インフォメーションセンターにおいて、東京都第二建設事務所より、日本における河川制度の変遷、東京都建設局の河川事業の概要、及び野川の概要と川づくりの歴史について、資料やパネルを用いて丁寧にご案内頂きました。合わせて、台中市側が要望していた野川における多自然川づくりや、地域と連携した川づくりの進め方について、東京都が各河川に設置する「流域連絡会」を例に、事業の計画から設計、工事段階での住民説明会を始めとする地域との対話の仕組みについてご紹介頂きました。

■ 野川流域連絡会のホームページ：

<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/jigyo/river/kankyoryuiki/05/nogawa-title.html>



インフォメーションセンターにて

(2) 江戸川における技術交流（午後）

昼からは、千葉県松戸市へと移動し、坂川から江戸川に流れ込む水を河川敷に埋められている浄化槽内で礫間接触酸化法により浄化する古ヶ崎浄化施設を見学しました。

日本においては、下水道の整備等により河川の水質改善が進み、河川水を直接浄化する施設はその役割を終えつつありますが、台湾においては現在も同様の施設が整備されているとのことで、日本が経験した運用や維持管理のノウハウに対する期待が高いことが確認できました。



古ヶ崎浄化施設にて



一之江境川にて

(3) 江戸川区内の親水河川における技術交流（夕方）

続いては、市民との協働による川を基軸としたまちづくりの事例として、江戸川区内の複数の親水河川を視察しました。

「親水」という言葉の発祥地でもある古川、またその後の江戸川区における複数の親水河川整備で培った経験を活かして整備された一之江境川、またかつて塩の道として人工的に開削され、その後歴史・文化を踏まえて再生された新川を巡りながら、親水河川の技術的な変遷や経験に根ざした教訓、また地域住民と協働した川づくりの進め方などについて現場を見ながら意見交換を行いました。



40年以上前に設計された古川にて



新川にて

【3】おわりに

今回の視察の最後に、今日一日で最も印象に残った出来事について視察団に伺ったところ、「野川を案内頂いた東京都の職員の方々が、資料を始めとして入念にご準備頂き、またとても判り易く丁寧にご説明頂いたことに感謝と驚きを覚えました。」との回答を頂きました。住民説明会の様な仕組みをこれから積極的に展開していこうと考えている台中市職員にとって、インフォメーションセンターの様な施設を始め、行政による事業広報あり方についても刺激になったようです。

都市河川再生の技術はもちろんのこと、地域住民との協働による川づくりの経験など、東京都を始めとする日本が培った経験が、これからの台中市の川づくりにも活用され、相互の更なる技術交流に発展していければと思います。

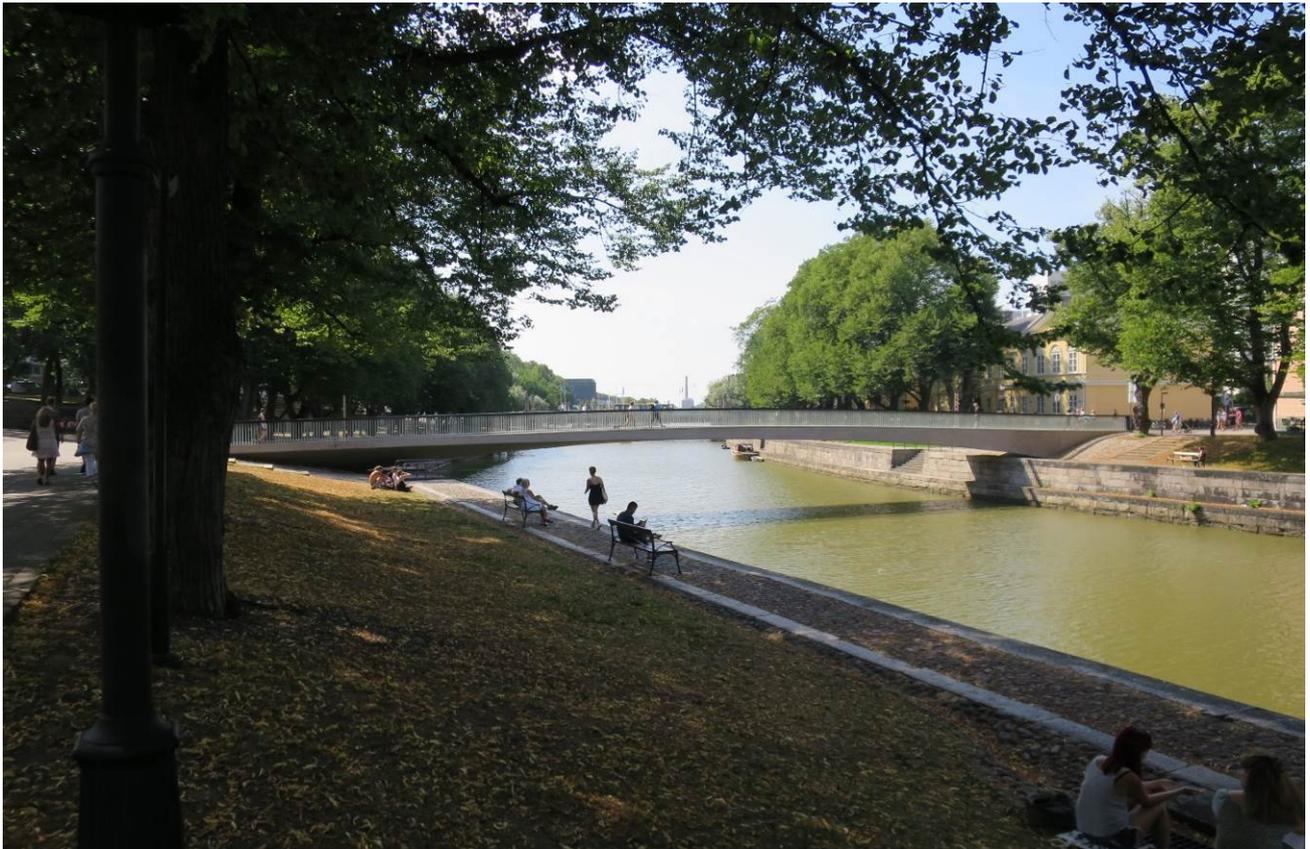
最後に、野川の視察に際し、直前のお願いにも関わらず丁寧にご協力頂きました東京都第二建設事務所のご担当者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(JRRN 事務局・和田彰)

水辺からのメッセージ No.112

岡村幸二 (JRRN 会員)

涼しげな水辺遊歩： インフラが市民の憩いの場をつくり それが永くまちの誇りとなる



撮影：2018年8月（フィンランド・トゥルク・アウラ川）

◆川沿いに“文化”が集積

フィンランドの西のはしにあるトゥルクは、帝政ロシアにより 1812 年に首都をヘルシンキに移されるまでは、スウェーデンの威勢によりフィンランドの首都となっていました。アウラ川の周囲には、大聖堂（福音教会）、図書館、大学、博物館などが集積しています。

◆文化をつなげる美しい橋

デザイン性にすぐれ、やわらかな曲線を活かしたスレンダーな人道橋は、見る人に心地よさを感じさせてくれます。高欄の縦さんには透明感あるガラス材（or 強化プラスチック）が使われています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

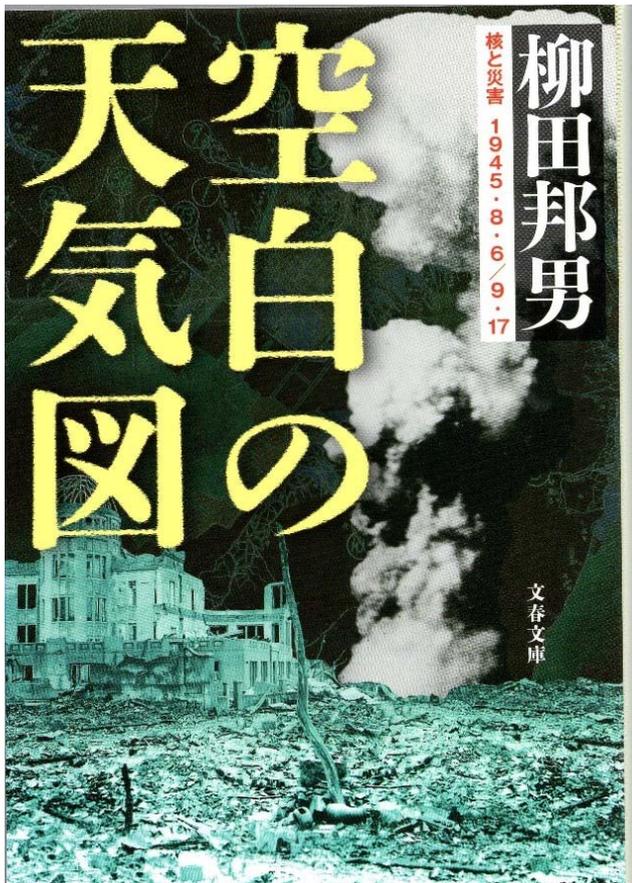
旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

河川書の探求(5)

広島県の水害・土砂災害

古賀邦雄・古賀河川図書館 (JRRN 会員)

1. 昭和 20 年 9 月 17 日枕崎台風



今年(平成 30 年)は、昭和 20 年 8 月の敗戦から戦後 73 年を迎えた。8 月 6 日広島に、9 日長崎に、原爆が米軍機 B29 から投下され、両市の死者 29 万 6000 人が犠牲となった。15 日敗戦が宣化され、無条件降伏。戦死者 310 万人に及んだ。

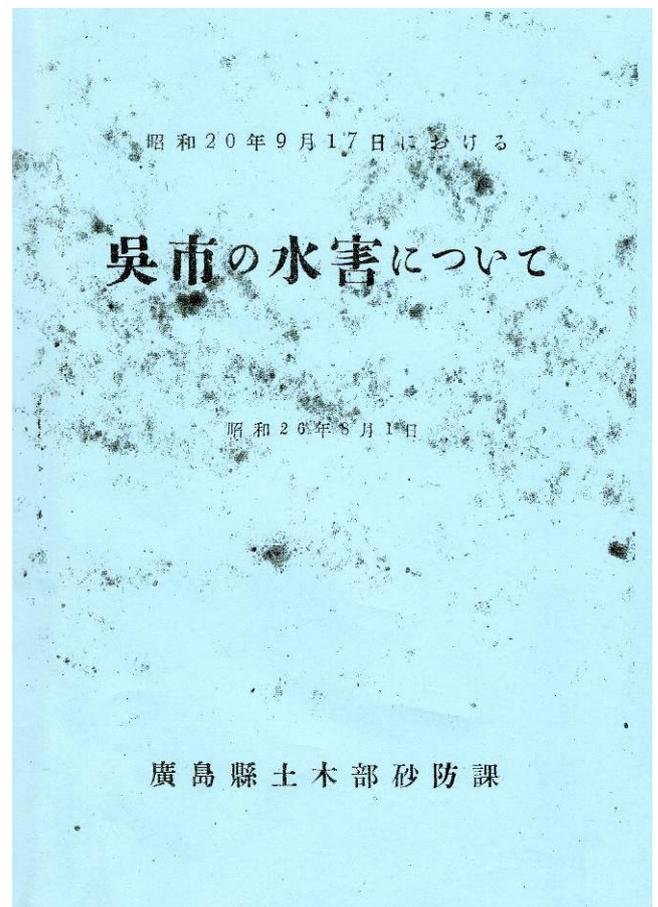
敗戦直後人々が、極めて物資不足により苦難な生活をおくっている時、枕崎台風が 9 月 17 日西日本地方を襲い、九州・四国・中国の諸河川が氾濫し、死者・行方不明 3,756 人、全壊 7 万戸に及んだ。広島県も河川が氾濫し、死者 2,012 人、全壊 1,162 戸の大被害となった。枕崎台風による広島県下の悲惨な状況を克明に追った柳田邦男著『空白の天気図』(文春文庫・2011 年)がある。

当時まだ、軍の命令で天気予報は国民に十分に、自由に知らされなかった時代である。原爆被害の中で広島は混乱、広島管区気象台では、台員たちが自らも放射線障害に苦し

みながら、「一日たりとも欠測してはならない」という気象精神に基づき、必死となって観測調査が続けられた。被爆で間もなく病死する台員もでた。

この書では、京大原爆災害調査班のメンバーが大野陸軍病院にて佐伯郡大野町丸石川の土砂災害に遭遇し、研究班 11 人を含む病院関係者 156 人が殉職。その悲劇も描かれている。昭和 53 年 7 月大野町丸石の災害地に「京大原爆災害調査班遭難記念碑」が建つ。また厳島神社も土砂崩れに遭い、厳島神社境内地には「紅葉谷川枕崎台風災害記念碑」も建つ。

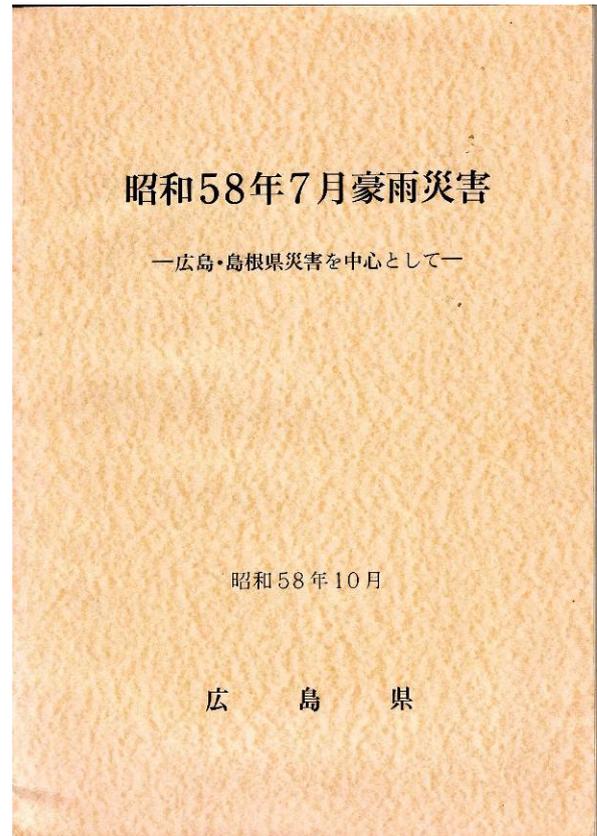
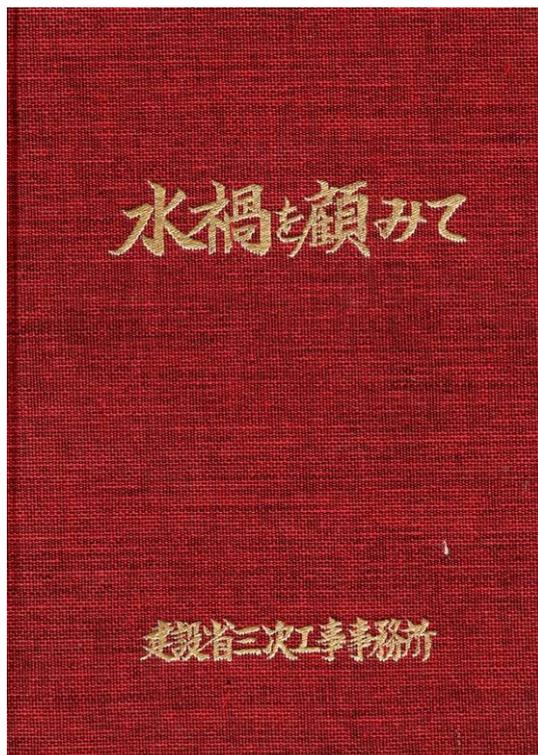
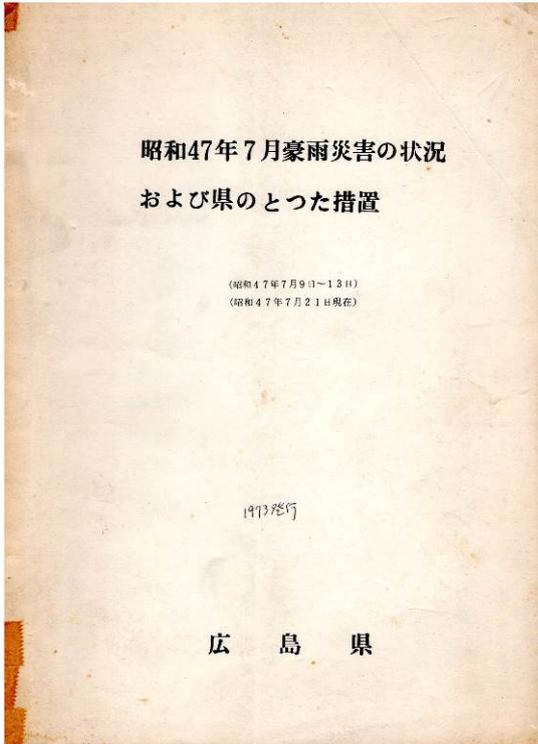
呉市では、吉浦大川・神賀川・黒瀬川の氾濫、水ヶ迫川沿いの山崩れなどによって、1,154 人の死者、1,162 戸の家屋流失の被害がでた。広島県土木部砂防課編・発行『昭和 20 年 9 月 17 日における呉市の水害について』(昭和 26 年)に、その被害が記録されている。



2. 昭和 26 年～昭和 63 年の水害

枕崎台風後も広島県の水害は続いた。

昭和 26 年ルーヌ台風により大竹市等死者・行方不明 166 人、家屋全壊 716 戸の被害。昭和 42 年 7 月豪雨により呉市など死者 159 人、全壊家屋 514 戸の被害。昭和 47 年 7 月豪雨により三次市など死者・行方不明 39 人、全壊家屋 349 戸の被害、この水害については、**広島県編・発行『昭和 47 年 7 月豪雨災害の状況および県のとった措置』**(昭和 48 年)、江の川流域の惨状を捉えた**建設省三次工事事務所編・発行『水禍を顧みて』**(昭和 56 年)がある。



昭和 58 年 7 月の集中豪雨は、島根県西部、山口県北部、山口県北部を中心に、死者・行方不明 112 人を出した。**広島県編・発行『昭和 58 年 7 月豪雨災害－広島・島根県災害を中心として－』**(昭和 58 年)がある。

昭和 63 年 7 月の豪雨は山地の斜面の崩壊、土石流を引き起こし、広島県山県郡加計町、島根県浜田市などにおいて、死者広島県 14 人、島根県 6 人、家屋の全半壊広島県 58 世帯、島根県 185 世帯の惨事が生じた。**中国新聞社編『集中豪雨を追う－昭和 63 年 7 月加計・浜田災害－』**(溪水社・平成元年)、**科学技術庁国立防災科学技術センター編・発行『1988 年集中豪雨災害調査報告－島根・広島地区－』**(昭和 63 年)がある。

3. 平成の水害・土砂災害

平成時の広島県における台風と豪雨災害を追ってみる。

平成 3 年台風 19 号は、雨をあまり伴わない風台風であった。広島市、佐伯郡、安芸郡、山県郡等の地域に、死者 6 人、家屋全壊 50 戸にの被害がでた。台風による強風や高潮が沿岸・島嶼部に被害を及ぼした。日本三景の一つ宮島の国宝厳島神社の能舞台などが倒壊した。

広島県県民生活部編・発行『1991 年 9 月 27 日台風第 19 号災害の記録』(平成 5 年)がある。

平成 11 年 6 月 29 日豪雨は、広島市、呉市を襲い、土砂災害発生件数 325 件、死者・行方不明 32 人、家屋全壊 101 戸をだした。

この広島災害を契機として、建設省防災国土管理推進本部が開催され、「総合的な土砂災害対策に関するプロジェクトチーム」が設置された。

平成5年5月「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」(「土砂災害防止法」)が公布され、13年4月施行された。平成15年3月広島において、全国初の「土砂災害警戒区域等の指定」13区域が実施される。

土砂災害防止法施行後も災害は起こっている。平成16年台風16号により、広島市、佐伯郡など死者5人、家屋全壊27戸、2010年7月16日ゲリラ豪雨により庄原市など死者5人、全壊家屋19戸の被害がでた。

4. 平成26年8月広島土砂災害・平成30年西日本豪雨災害

太田川沿いを平行に走る国道54号・JR可部線における広島市のベッタタウンである安佐南区、安佐北区などの山裾の住宅地に、平成26年8月20日未明に豪雨に伴う土石流が襲った。死者74人、家屋全壊133戸などの大災害が起こった。

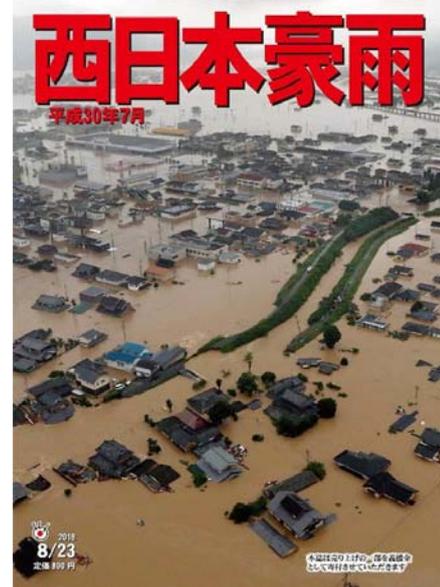
中国新聞社編・発行『2014/8・20 広島土砂災害報道写真集』(平成26年)によれば、暖かく湿った空気の流入によって、広島市一帯で山に積乱雲が発生、上空の覆う湿った空気の層とぶつかり、積乱雲がさらに発達。積乱雲は上空3キロ付近の南西風により、北東に流された。

湿った空気は長時間入り続け、同じ場所に相次ぎ積乱雲が発生させ、8月19日午後6時から20日午前6時までの12時間にわたって、200ミリ以上の雨を降らせた。長さ約23キロ、幅5キロの狭い範囲に線状降水帯となって大雨を降らせ、尊い人命が奪われた。この広島土砂災害記念碑が祇園小、梅林小、三入小等の校庭に建立にされている。

なお、広島の降り方は、昨年(平成29年)7月5日死者・行方不明42人がでた、九州北部豪雨の福岡県朝倉市・東峰村・大分県日田市における筑後川支川に氾濫を起こした線状降水帯と全く同じである。

今年(平成30年)7月5日～8日にかけての西日本豪雨は、大雨特別警報が京都、兵庫、鳥取、岡山、広島、愛媛、福岡などにだされ、諸河川が氾濫し、200人以上の死者・行方不明がでた。広島県では、広島市、福山市、呉市など11市町の40ヶ所以上で土砂災害が発生、6河川で堤防が壊れ、29河川で堤防から越水し、住宅被害千棟超えた。福山市では溜池が決壊、安岐区・安佐北区・呉市・熊野町・坂町などでは、土砂崩れが起こり、被害が生じた。

産経新聞社編・発行『西日本豪雨 平成30年7月』(平成30年)が緊急出版されている。



5. 早期避難・余裕避難の実施

戦後73年間の広島県における水害・土砂災害について、いくつかの災害書からみてきた。日本列島は東アジアに位置し、モンスーン気候帯に属し、6月～9月にかけて大雨が降り、台風の通り道である。近年特に地球温暖化に伴い前線や台風による豪雨が起り、1時間雨量100ミリ以上の降雨が通常のようになってきた。

さらに、日本列島は急峻な国土を擁し、大雨は谷筋に流れ込み土砂災害を起こしやすい地質と地形を持っている。高度経済成長で山裾などの都市開発によって、災害には脆弱性の地域が増大してきた。日本ではどこでも災害が起こる時代だ。

災害を、早く予知して逃げるが勝た。まずは、早期避難、余裕避難が一番大切である。

<家呑みし泥を掻き出す手作業の生きてゆかねばならぬその手よ> (美原凍子)

会議・イベント案内 (2018年9月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 第11回 いい川・いい川づくりワークショップ

○日時：2018年9月8日(土)～9日(日)

○主催：いい川・いい川づくり実行委員会

○場所：帯広畜産大学(北海道帯広市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2793.html>

■ 琵琶湖外来魚駆除大会

○日時：2018年9月9日(日) 10:00-15:00

○主催：琵琶湖を戻す会

○場所：津田江1-北湖岸緑地(滋賀県草津市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2812.html>

■ ワークショップ「土砂流動を考慮した河川計画について」

○日時：2018年9月11日(火) 13:30-17:00

○主催：土木学会水工学委員会

○場所：主婦会館プラザエフ 7Fカトレア(東京都千代田区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2799.html>

■ 第26回 リバーフロント研究所 研究発表会

○日時：2018年9月14日(金) 13:00-17:30

○主催：公益社団法人リバーフロント研究所

○場所：日本橋社会教育会館8階ホール(東京都中央区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2821.html>

■ 九州北部豪雨災害復興支援コンサート

○日時：2018年9月17日(月) 敬老の日 13:00～

○主催：コンサート実行委員会(西日本新聞社他)

○場所：アクロス福岡シンフォニーホール(福岡県福岡市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2806.html>

■ 第197回 河川文化を語る会：船上講演『川から見る東京2018』

○日時：2018年9月19日(水)

○主催：公益社団法人 日本河川協会

○場所：運航ルート(神田川→日本橋川→隅田川→神田川)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2818.html>

■ 応用生態工学会自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！VI リターンズ」

○日時：2018年9月22日(土) 15:30-17:30

○主催：企画者：原田守啓, 三橋弘宗, 林博徳

○場所：東工大岡山キャンパス(東京都目黒区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2823.html>

■ 皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報のPRや共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介 *Publications*

■ 水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？(2017.3発行)

・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・発行年月：2017年3月

・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3発刊)

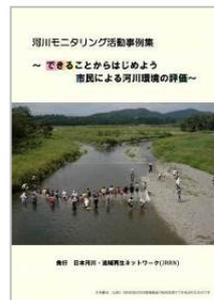
・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)

・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関

・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直) 研究室

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

Email: info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

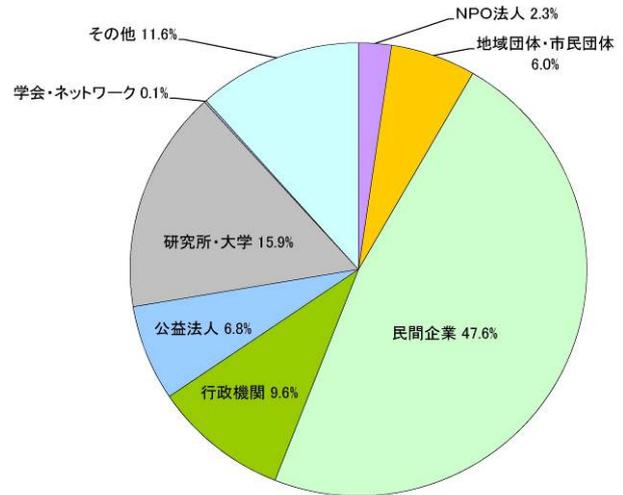
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2018年8月31日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：786名、団体会員数：60団体)
※8月の新規入会数：個人会員3、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN	JRRN	非会員 (一般)
	個人会員	団体会員	
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 NMF 茅場町ビル 7 階 (公財) リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

